



石巻広域クラブ通信 <No.106>

THE Y'S MEN'S CLUBS OF GREATER ISHINOMAKI

CHARTERED MAY28, 2016

YMCA-ISHINOMAKI-CENTER
KyuEikoyochienchinai2-12-3,Okaidokita,
Ishinomaki, 986-0854,Japan

〒986-0854 石巻市大街道北 2-12-3
旧栄光幼稚園 2 階 YMCA 石巻センター
電話 090-1373-3652(川上) 090-2365-7940 (清水)

2025年7月号

E-mail : gishinomaki@gmail.comE-mail: koichi6759@outlook.jp

== 2025-2026 年度 主題 ==

クラブ会長 石川光晴「瓦礫、命、感謝。次の未来へ！」～大会テーマとともに～
北東部部長 三田庸平(もりおか)「ユースと共に明るい未来を」
東日本区理事 山下真(十勝)「ワイズのらしさ再発見」
アジア太平洋地域会長 田上正(熊本むさし)「信念と愛をもって行動しよう！」
国際会長 エドワード・オン(シンガポール)「信念、愛、行動」

<今月の聖句>

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている」(イザヤ書 43 : 19)

<強調月間：キックオフ／PR>

2025 年 7 月 第一例会(年次総会)プログラム

日 時 7 月 2 5 日 (金) 18:30～20 : 30

場 所 YMCA 石巻センター

<例会プログラム>

司会：川上直哉

1. 開会点鐘 会長 石川光晴
2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
3. ゲスト・ビジター紹介 司会
4. 会長あいさつ 会長 石川光晴
5. 北東部部長公式訪問挨拶 北東部部長 三田庸平
6. 今月の聖句・お祈り 関川祐一郎
7. 食事と懇談 一同
8. 2025-2026 年度年次総会(議長選出：)
 - (1) 2024-2025 年度収支決算報告と監査報告承認の件
 - (2) 2025-2026 年度会長方針と事業計画の件
 - (3) " 年間計画について
 - (4) " 年度収支予算案について
9. 諸報告 担当者
 - ①仙台 YMCA 報告②石巻大会第 5 回ホスト委員会について③北東部第 1 回評議会について⑤東北ヘルプ能登支援ワークについて⑥その他
10. ハッピーバースデー 19 日：梶原友広さん
11. ニコニコ

「AYC 熊本大会参加支援のために」 会計
12. 閉会あいさつと点鐘 会長 石川光晴

～東日本区大会をホストし、

地域の成長を願い共に歩もう！～

2025-2026 会長 石川 光晴



東日本大震災から 15 年目に入り、
明年 5 月にはクラブは創立 10 周年を
迎えます。私たちを取り巻く社会環
境は大きく変わろうとしています。
これからの YMCA とワイズメンズク
ラブの運動をいかに全国各地や石巻
地域で展開し、未来へと繋ぐことができるでしょうか。
3.11 の復興状況を皆で確認し、総括し、話し合い、
そして被災地の真の復興支援への一助となるために、
石巻広域クラブは第 29 回東日本区大会の開催を仙台
3 クラブ、もりおかクラブの協力を得てホストするこ
とになりました。

3.11 の最大被災地石巻圏は震災前とは劇的な変化
を遂げましたが、まだまだ復興途上にあると云って
も過言ではありません。大会を開催するためにはこ
れからの一年間、様々な課題をクリアしながら準備
を行ってまいりましょう。

よき準備は、よく楽しみながら、そして良い結果
を引き出せるように、2 度目の会長就任となりました。
皆さまのご支援とご協力を切にお願い申し上げ
ます。

■ 6 月データ / 7 月号内容：7 月例会プログラム、会長巻頭言、6 月第一例会報告、
7 月拡大役員会報告、YMCA 報告 (YMCA 大会ほか)、7～9 月クラブスケジュール、
2024-2025 年度クラブ表彰一覧、投稿 (川上灯コメント)、THE YMCA ニュース

6 月例会出席	12 名	在 籍 会 員 数	18 名	各種記録	月実績	年度 累計
メンバー	11 名	月間出席者	9 名	スマイル	8,500 円	134,470 円
ビジター・メネ	1 名	メーキャップ	2 名	ファンド	11,220 円	11,220 円
ゲスト・コメ	2 名	月 間 出 席 率	61%	BF	0 円	0 円

会 長 石川 光晴
副会長 日野峻・阿部かよ子
書 記 川上 直哉
会 計 清水 弘一
直前会長 関川祐一郎
担当主事 半澤 明美
監 事 川上 恵

6月第一例会報告

1. 開会点鐘 会長 関川祐一郎
2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
3. ゲスト・ビジター紹介 司会
4. 会長あいさつ 会長 関川祐一郎
5. 今月の聖句・お祈り 関川祐一郎
6. 食事と懇談
7. 新旧会長引継ぎ式 司式：区行政監事 清水弘一
役員就任式・式文、会長バッチ引継ぎ
新旧会長あいさつ
8. 第28回東・西日本区大会参加報告 参加者
(1) 宇都宮大会 (2) 神戸大会
9. 諸報告 担当者
①仙台 YMCA 報告②2026 石巻大会ホスト委員 ZOOM
会報告③石巻平和七夕の開催について④北東部評議
会について⑤クラブ年次総会の案内(6/27) ⑥その他
10. ハッピーバースデー
9日：関川祐一郎さん
11. ニコニコ
「YMCA 特別プログラムのために」 会計
12. 閉会あいさつと点鐘 次期会長 石川光晴

<例会要旨>

ホスト委員長／書記 川上直哉

2025年6月27日(金)18時半から、石巻センタ
ーにて、例会が開催されました。

ワイズメンズクラブは「7月～翌6月」を年度と
しています。2025年度の終わりにあたり、会長を務
めて下さった関川先生から、新しく会長を務めて下
さる石川さんへ、会長の引継ぎが行われました。

ワイズメンズクラブの創設者とされるポール・ウ
ィリアム・アレクサンダー氏は、「ワイズメンズクラ
ブは排他的な団体だ」と語っていました。その意味
は、「ワイズメンズクラブは、志以外に、何も求めな
い。志以外の何かを求める人は、誰であっても、ク
ラブにふさわしくない。」ということでした。

ワイズメンズクラブの特徴は、社会階級や性別そ
して宗教思想信条の違いを「まったく問題にしま
ない」という点にあります。その点で、ロータリーク
ラブやライオンズクラブと、ずいぶん違うようで
す。どんな仕事をしている人でも、していない人
でも、あるいは障碍(がい)と共に生きているとし
ても、クリスチャンであっても・なくても、まっ
たく、平等である。みんなが輪番で会長になり、そ
の会長をみんなで支える。「青少年の健全な育成」と
いう志だけが、あればいい。——それが、ワイズメン
ズクラブであるようです。

今回の例会で、会長引き継ぎ式が行われた際、

通例通り、簡略版の「式文」が用いられました。
それは、「ワイズメンズらしさ」を確認するよい機
会となりました。

「青少年の健全な育成」という志だけでつなが
るネットワークは、全国・全世界へと広がってい
ます。例会では、東日本区・西日本区大会の報告
がなされました。来年の東日本区大会を石巻後
期クラブがホストする、という(いささか大きすぎ
る)挑戦は、ワイズの広がりを実感させる
大きなきっかけとなっています。そのひろがり
の中で、仙台YMCAの活動もまた、ひと月、展
開した。「YMCA報告」を、今回の例会でも、意
味深く拝聴したことでした。遠路、多忙な中で駆
けつけて下さる半澤さんに、感謝を深めていま
す。(↓写真上：左リモート参加の関川会長、中央石川次期会長)



↑6月第一例会参加者一同

7月拡大役員会報告

日 時 2025年7月11日(金) 18:30～20:30
場 所 YMCA 石巻センター
出席者 青木満里恵、川上直哉、清水弘一、川上恵
石井龍子、大林健太郎、日野峻(Z)

<プログラム>

1. 開会点鐘 会長代行 川上直哉
2. ワイズソング 全員
3. 会長あいさつ なし
4. 軽食 一同

5. 報告事項

(1) 2025年6月第一例会の開催報告

日 時 2025年6月27日(金)18:30～20:30
場 所 YMCA 石巻センター
内 容 ①新旧会長引継ぎ式
②第28回東・西日本区大会参加報告

出席者 関川祐一郎 (ZOOM)、石川光晴、青木満里恵、
大林健太郎、梶原友広、川上直哉、川上恵、
川上灯、川上奏、半澤明美、清水弘一
＜MC＞日野峻、平井順子

(2)) 宇都宮大会時におけるクラブ物品販売事業について

日 時 2025 年 6 月 7 日 (土) 10 時～18 時
場 所 ライトキューブ宇都宮 3 階ホワイエ
内 容 決算報告とクラブへの対応について
その他 4 月神戸ポートクラブチャリティーコンサート時の対応報告について

(3) 第 28 回西日本区大会 (神戸) への参加と石巻大会アピールについて

日 時 2025 年 6 月 14 日 (土) 午前 9 時～午後 20 時 前夜祭は 13 日

場 所 ANA クラウンプラザホテル神戸
参加者 川上直哉、清水弘一、川上灯コメント

(4) 仙台 YMCA バザー2025 開催報告

日 時 2025 年 6 月 15 日 (日) 9 : 00～15 : 00
場 所 仙台 YMCA 立町会館
出席者 川上直哉、清水弘一、郷内宣子
対 応 ①仙台青葉城クラブと共同出店 ②バザー実行委員会への献金 2 万円

(5) 仙台 YMCA 大会開催報告 (創立 120 周年記念)

日 時 2025 年 6 月 28 日 (土) 10 時半～14 時
場 所 YMCA 立町会館
内 容 ＜第 1 部＞120 周年記念公開講演会 (YMCA と日本被団協、仙台平和七夕他) ＜第 2 部＞交流会 ＜第 3 部＞礼拝 (奨励「平和が私たちを支配する」＜第 4 部＞会員総会 (議案・表彰)

6. 協議事項 書記 川上直哉

(1) 7 月第一例会 (年次総会) の開催告示

日 時 2025 年 7 月 25 日 (金) 18 : 30～20 : 30
場 所 YMCA 石巻センター
内 容 ①2024-2025 年度収支決算報告と監査報告
②2025-2026 年度会長方針と事業計画の件
③2025-2026 年度年間計画について
④2025-2026 年度収支予算案について
その他 ①三田北東部部長公式訪問 ②欠席者は委任状の提出要請

(2) 2025-2026 クラブ前期半年報の報告と Roaster の確認

- ・2025 年 7 月 1 日現在 18 名
- ・2025 年 7 月 1 日現在の住所、連絡先、メールアドレスの確認

(3) ノーベル平和賞講演会のご案内

日 時 2025 年 7 月 19 日 (土) 13 時～16 時
場 所 尚綱学院中学高等学校礼拝堂 (12:30 開場)
共 催 平和を祈る七夕市民の会・尚綱学院
講演者 代表委員田中熙巳

(4) ひきこもり寺子屋開催について

場 所 2025 年 7 月 19 日 (土) 10 : 30～12 : 00

②8 月 23 日、③9 月 20 日

会 場 石巻市健康保険相談センタ

主 催 法人格なき社団シャローム ノア

(5) 第 31 回アジア太平洋地域大会熊本 2025 への参加について

日 時 2025 年 8 月 1 日 (金) ～3 日 (日)

場 所 熊本城ホール、ホテル熊本日航など

参加予定者 川上直哉、川上恵、川上灯 (YVF) 石井龍子、櫻井美智江、清水弘一

其の他 ①交通費、宿泊料について ②クラブ支援金について

(6) 台湾ニブーン合唱団ミニコンサートと台湾エバグリーン (宝塚⇒神戸ポートクラブからの紹介)

日 時 2025 年 7 月 29 日 (火) 11 : 45 開演

(11:20 開場) 12:15 終了予定

場 所 石巻専修大学森口記念講堂

入場料 無料＜関連イベント／台湾エバグリーン展

日 時 2025 年 7 月 10 日 (木) ～7 月 29 日 (火)

会 場 第 1 会場：石巻市震災遺構門脇小学校フリースペース、第 2 会場：みやぎ東日本大震災津波伝承館「思い致す場」

入場料 無料

(7) 能登半島地震支援ワーク (東北ヘルプ主催)

日 時 2025 年 7 月 28 日 (月) ～7 月 30 日 (水)

場 所 輪島市町野町集会所

出席者 川上直哉、中澤牧師、清水弘一

(8) 東日本区石巻大会第 5 回ホスト委員会の開催

日 時 2025 年 7 月 31 日 (木) 19 : 30～21 : 00

場 所 オンライン

議 事 ①大会登録受け付け方式について②大会プログラムについて③その他準備状況など

(9) 8 月拡大役員会と第一例会の開催

＜拡大役員会＞

日 時 2025 年 8 月 8 日 (金) 18 : 30～20 : 00

場 所 石巻センター

＜第一例会＞

日 時 2025 年 8 月 22 日 (金) 18 : 30～20 : 30

場 所 石巻センター

(10) YMCA ストレッチヨガ教室 (P48) の開催

日 時 2025 年 8 月 27 日 (水) 10 時～12 時

場 所 新蛇田第一集会所

(11) 石巻大会第 4 回ホスト委員会開催について

日 時 2025 年 6 月 26 日 (木) 19 : 30～21 : 00

場 所 オンライン方式

出席者 ①ホスト委員会メンバー

②区大会実行委員会メンバー

(12) 石巻平和七夕 2025 の実施計画について

(13) クラブブリテン7月号の発行について

- 発行日 2025年7月24日(木)、原稿締め切り7月20日(日)
- 内容 ①7月号巻頭言(石川会長) テーマ:「東日本区石巻大会に向けて!」 ②6月第一例会報告(川上) ③YMCA報告(半澤) ④能登半島地震支援ワーク報告 ⑤2025-2026年度「今月の聖句:担当/関川直前会長」

(14) その他 (今年度クラブ会費納入のお願い その他)

7. 閉会あいさつと点鐘

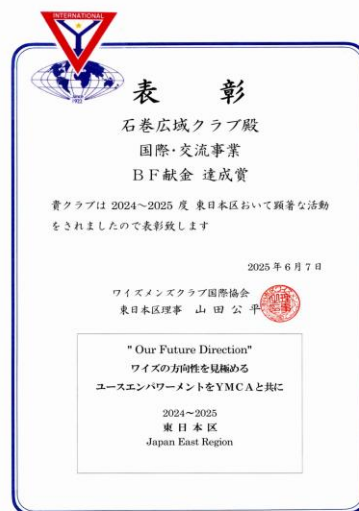
青木満里恵

クラブスケジュール(7月~9月)

プログラム名	月 日	場 所
北東部第1回評議会	7月26日(土)	アイーナ岩手14時~
あずさのつどい	7月26日(土)	YMCA山手センター
能登半島支援ワーク	7月28日(月) ~7月30日	輪島市町野町
区大会ホスト委員会 (第5回)	7月31日(木)	オンライン19:30~
AC熊本大会	8月1日(金) ~8月3日(月)	熊本城ホール ホテル日航熊本
クラブ8月拡大役員会	8月8日(金)	石巻センター
〃 8月第一例会	8月22日(金)	〃
YMCA ヨガ教室(P48)	8月27日(水)	新蛇田集会所
クラブ9月拡大役員会	9月5日(金)	石巻センター
YMCA チャリティーラ ン2025	9月23日(祝)	仙台市西公園
クラブ9月第一例会	9月26日(金)	石巻センター

2024-2025 年度クラブ表彰

- ① 会員増強事業(新入会員獲得努力賞)
- ② 地域奉仕・YMCA サービス事業(CS 献金達成賞)
- ③ 会員増強事業/川上直哉(新入会員獲得優秀個人賞)
- ④ 会員増強事業(ノンドロップ賞)
- ⑤ 国際・交流事業(BF 献金達成賞)
- ⑥ 国際・交流事業(YES 献金達成賞)
- ⑦ ユース事業(ユース活動支援献金達成賞)





担当主事 半澤 明美

① 2025年度 仙台YMCA大会・120周年記念講演会

6月28日(土) 立町会館にてYMCA大会と講演会が行われました。

「私にとって平和とは」と題された講演会では広島YMCAの職員が2024年の被団協ノーベル平和賞受賞の際の話をしてくださいました。被団協は広島YMCAから始まったこと、平和への働きがYMCAと平和NPOとの繋がりでさらに広がっていくよう願うというお話がありました。

また、平和七夕を50年間続けている油谷さん、ミャンマー、イラン、ロシアの方がそれぞれの立場で考える平和についてお話がありました。参加者一人ひとりの心にも強く響き、平和について深く考える時間となりました。



② 着衣水泳教室

幼稚園と4つのこども園では、6月に着衣泳を実施しました。服のままプールに入りその動きにくさや重さを実感しました。また、ライフジャケットの着方、何かあった時の助けの呼び方なども学びました。



③ 夏季ユースボランティアリーダー委嘱状授与式

7月10日(木) 立町会館にて、この夏から新しくボランティアリーダーになる若者に委嘱状が授与されました。プールの活動やキャンプなどYMCAの様々な活動に参加するリーダーへ、ワイズメンや職員から励ましの言葉が送られました。日本の将来を担う若者たちがYMCAの使命に触れながら、視野を広げ、経験を積んでいくことが期待されています。



加藤研委員長より委嘱状の授与



川上牧師による開会礼拝

「足元の戦争、足元の平和」

<投稿>

YMCA ユースリーダー

川上 灯



世界情勢が緊迫する中、ミャンマー、イラン、ロシアの3カ国にルーツを持つ留学生から平和についてのスピーチを聞いたのは貴重な体験だった。3人のスピーチの共通点として強く感じたのは「戦争」の複雑さだ。ロシア出身のAさんは、自分にとっての戦争の記憶は、ドアをノックする音だと言っていた。息をひそめて家の中に隠れ、徴兵を逃れた経験を話してくれた。私たちは例えば「ウクライナ」と聞いたとき、被害者という印象を受ける。一人のロシア人、ウクライナ人に会う時、私たちは彼ら彼女ら自身を見ているのだろうか。もし私たちが誰かに対して、自分たちの「国民」像を見るなら、平和はすでに私たちの足元から失われている。イラン出身のBさんは、平和は戦いの中で少しずつ無くなるものだと言っていた。戦争とは、2つの国がいがみ合うという単純な出来事ではなく、本来なら多様な背景、ライフスタイル、ルーツを持つ人々が対立を余儀なくされる状況である。広島YMCAの中奥さんによると、ノーベル平和賞授賞式に出席した際、被団協は「ノーモア・ヒロシマ」「ノーモア・ナガサキ」の横断幕を掲げて行進した。すると、オスロ市民はその後ろに何メートルも列を作った。ここに「平和」の糸口があるように思う。私たちは常に分断されていることを自覚して初めて、繋がることができるのではないか。どこにいても戦争とは無縁ではないことを自覚したとき、私たちは同じ痛みを分かち合うことができる。そしてオスロ市民も、「平和七夕」の仙台市民も、広島と長崎のために祈ることができる。ミャンマー出身のCさんは、「平和とは、心に心配事がなく、家族や健康に集中できることだ」と言っていた。世界の平和は私たちの身近なところから始まる。私は今月末からAYCに参加し、アジア地域のユースと平和について語る。足元から平和を生み出していきかけにしたい。

関連記事の紹介：「THE YMCA ニュース7・8月号より」

会員インタビュー

千葉県の被爆者団体の事務局を務め、昨年のノーベル平和賞授賞式にも同行した千葉YMCA会員の青木清子さんに、お話をうかがいました。



私は4歳の時、広島駅から8kmほどの自宅で被爆しました。爆風で家の戸が飛ばされましたが、幸い怪我はありませんでした。しばらくすると、市中から無数の人が逃れてきました。皮膚がむけて垂れ下がり、それを体の前で支えるようにして力なく歩く人たちの姿は、今も目に焼き付いています。母も慌てて、とにかくご飯を炊いておむすびを握り、私がその人たちに差し上げました。

3日後に市中に入り、負傷した従妹を連れて帰りました。背中じゅうに刺さったガラス片を看護師が抜いて、彼女は助かりましたが、兄弟2人は消息不明のままです。その後、たくさんの知人・友人が原爆症で死にました。10年、20年経ってからも、健康だった人がある日突然に発症して亡くなっていました。

私自身は、広島大学に進学して学生YMCAに所属。聖書研究会のほか、原爆孤児院の訪問活動などもしました。卒業後は美術教師として小中学校で勤務し、退職後は千葉YMCAで美術教室を主宰。83歳の今も高校生や障がいのある方々に美術を教えています。またワイズメンズクラブの活動にも加わり、国際大会にも参加してきました。

25年前、くも膜下出血で意識不明の数日を過ごしたことを機に、被爆者の会に関わり始めました。今は事務局を預かるとともに、市内の小中学校で被爆証言をしています。教師の経験も活かして、子どもたちに原爆の恐ろしさを伝えたい、そして仲良く暮らす大切さを伝えたいと思って活動しています。

昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した際、私もその応援団の一人としてノルウェーの授賞式に同行し、現地で被爆証言もしました。核兵器の真実を多くの人に伝え、平和な、核兵器のない世界を実現できるよう願っています。

戦後80年に ～被爆者の声を聴く

書籍紹介 「天よりの声ーヒロシマ・被爆二年目の手記」

(日本YMCA同盟出版部)

広島YMCAの会員たちによって編集された、日本で最初の日本人による原爆体験手記である。孤児となった子どもや学生、保育士、看護師、教師、兵士、父、母など、立場の異なる16人の体験が収められている。

「地獄の絵巻物のような中を、泣きながら走った」という小学生。原爆症で苦しみながら亡くなった生徒や家族について書いた校長。炎の中、我が子を見えなかった父の告白――。原爆の恐怖が目の前に迫ってくるような、生々しい手記が並ぶ。

この本は、単に悲劇を再現して抗議しようとしたのではない。「天よりの声」という書名のとおり、平和への熱願をこめたものだったが、あまりの衝撃的内容にGHQから出版を止められ、1949年にやっと日の目を見たのだという。しかし市民らは、出版と同時にこれを奪うように買い求め、「霊前に供え、死者の冥福を祈った」と記録されている。

それから34年後、1983年に改訂版が出された。改訂にあたって、当時の広島YMCA相原和光総事はあとがきで、次のように書いている。

「世界は原爆のすさまじい破壊力におののき反省しているであろうか？ しかも核爆発の恐ろしさを知らない若い層が増えている。(中略) 政府や国家権力では、今日のこの切迫する核戦争の危機を押しとどめることはできない。できるのは、私たち市民であり、草の根の人間です。今、立ち上がらなければ取返しがつかない。世界の友と手を取り合って、それぞれの自国政府の政策を改めさせよう。私たちの子ども、家族、親しい友の生命を守ろう。どうか、この一冊を一人でも多くの方に普及してください」

戦後80年。YMCAの先達が残した、血のしたたるような思いをあらためて見つめる年としく、下記に改訂版のPDFデータを公開しました。コピーのご希望などは、日本YMCA同盟までお問合せください。

https://www.ymcajapan.org/books_hiroshima-note/

